

拠点形成概要及び採択理由

機 関 名	京都大学
拠点のプログラム名称	アジア・メガシティの人間安全保障工学拠点
中核となる専攻等名	工学研究科都市環境工学専攻
事業推進担当者	(拠点リーダー) 松岡 譲 教授 外21名
<p>【拠点形成の目的】</p> <p>【背景】 アジア・メガシティにおける人間安全保障(human security)の確保、すなわち、ベーシック・ヒューマン・ニーズの充足、地域公害問題の克服、異常気象や地震等による災害リスクの軽減、これらの脅威に対する個人・家庭及びコミュニティ・レベルでのエンパワメントは、21世紀の人類に課された最大の課題の一つである。しかし、これらに対処すべき技術、制度、運営・管理、ガバナンスと、それらを体系的にマネジメントする学理及びそれを実践する人材の整備が、大きく遅れているため、未だ、人間安全保障の確立には、程遠い状態である。</p> <p>これまで、土木工学・建築学等の工学は、実学として現実の問題を解決するための学問体系を構築してきたが、アジア・メガシティにおける人間安全保障の確立のためには、これらを都市管理戦略や都市政策策定などの次元を含むいっそう総合的な学問に脱皮させ、それに基づいた教育・研究を推進する必要がある。</p> <p>【目的】 本拠点の目的は、アジア・メガシティを対象に、①都市の人間安全保障工学、すなわち「市民の生活を、日々の都市生活に潜む非衛生・不健康及び非日常的な大規模災害・大規模環境破壊などの脅威から解放し、各人が尊厳ある生命を快適に全うすることができる都市と都市群のデザイン・管理に関する技術(技法)の体系」を構築し、②それを教育・研究する拠点群の整備を行い、③次世代研究者及び高度な実務者の育成と、④いくつかのメガシティにおける具体的な処方箋を提案することによって、アジア・メガシティにおける人間安全保障問題の解決に寄与することである。</p> <p>【実績】 本拠点の構成専攻は、これまでアジア地域の大都市における環境改善・災害防御に大きく貢献してきた。①現在、100名以上の外国人卒業生が、アジア地域の大都市管理事業に携わっている。また、②中国・ベトナム三都市に海外拠点を展開し、徹底した現場主義に立脚した教育・研究活動を行っており、③マレーシア 10 大学及び中国 17 大学とは、都市環境をテーマに精力的な教育・研究交流を行なっている。さらに④e-Learningによりマラヤ大学・清華大学・京都大学間で都市環境リスクに関する同時授業を開講し、⑤世界銀行・アジア開発銀行・外務省・環境省・国際協力銀行などの国際機関・政府機関と共同し、年間 20 件以上の都市防災・環境に関する調査研究、年間 30 件以上の共同ワークショップを開催するなど、アジア地域における都市経営、リスク管理に関する中心的拠点として、世界をリードしてきた。</p> <p>【拠点形成計画の概要】</p> <p>(1)「都市の人間安全保障工学」の構築：本拠点の構成専攻において、これまで構築してきた都市の人間安全保障問題と直接的に関連する科目・研究、すなわち、①都市ガバナンス、②都市基盤マネジメント、③健康リスク管理及び④災害リスク管理の四領域にわたる科目・研究を、アジア・メガシティの人間安全保障の確立に向け、①徹底した現場主義と地域固有性の積極的な取り込み等によって強化するとともに、②領域・科目を越えた相補的な連携と統合を図る。さらに、それらを ③教育カリキュラムとして具現化し、後述する「都市の人間安全保障工学ユニット」等にて、実際に教授するとともに、④英文テキストシリーズとして刊行し世界に情報発信する。また、⑤重点共同研究プロジェクト等を実施し、本アプローチの都市の人間安全保障問題に対する有効性と社会的有用性を実証する。</p> <p>(2)国際的教育・研究拠点ネットワークによる次世代研究者、高度な実務者の育成：本拠点の構成専攻が、これまでに構築・展開してきたアジア諸国での教育・研究拠点を組織化し、次のプログラムを実施する。</p> <p>1)海外教育・研究拠点、海外活動協力拠点の設置・展開：海外活動拠点(深圳・ハノイの2ヶ所、教員常駐)、海外連携拠点(6ヶ所、協力機関との共同運営)を整備し、IT基盤等の支援により教育・研究・運営のネットワーク化を行う。現場研修、共同研究などの教育・研究活動の拠点とする。</p> <p>2)博士課程教育プログラム「都市の人間安全保障工学ユニット」の開設：都市の人間安全保障工学に関わる研究者・高度な実務者の育成を行う。一学年20名、うち約半数を海外教育・研究拠点等を通して募集・スクリーニングした留学生とする。アジア各国の都市管理実務者のリカレント教育にも重点をおく。</p> <p>3)重点共同研究プロジェクト等の実施：アジア・メガシティ、国際機関、NPO 等と共同し、人間安全保障工学の社会的有効性の検証、若手育成、政策提言を目的としたプロジェクトを実施する。</p> <p>4)シンポジウム・ワークショップの実施：国内外で英語による国際シンポジウム・ワークショップを精力的に実施し、本拠点の成果を世界に情報発信する。</p> <p>5)「都市の人間安全保障工学教育・研究センター」の設置：海外活動拠点・海外連携拠点のハブセンターとして、「都市の人間安全保障工学教育・研究センター」を京都大学内に設置する。教育プログラム、拠点ネットワーク、シンポジウム・ワークショップ等の運営・バックアップを行う。COE特任助教・優秀博士学生のRA雇用、助教・PDに対するCOE Grant、成果に応じたテニユア資格制度等を実施する。</p>	

機 関 名	京都大学
拠点のプログラム名称	アジア・メガシティの人間安全保障工学拠点
[採択理由]	
<p>アジアのメガシティという重要な研究対象に、明確な分析軸で取り組む意欲的な計画であり、研究・教育実績も高く、本プログラムにおいても成果が期待できる。</p> <p>人材育成面においては、これまでの実績も高く、特に海外拠点を活用した現地での実践教育については高く評価できる。</p> <p>研究活動面においても、人材育成面と同様、これまでの実績も高く、本プログラムにおいても成果が期待できる。</p> <p>ただし、拠点形成計画については、評価指標を適切に設定し、運営管理を適切に行うことが必要である。</p>	